

特別支援学級 実践事例

枝種(学級の種別)	小学校 (知的障がい特別支援学級)	本事例の教科等名	自立活動
<p>在籍児童 生徒の実態</p>	<p>3年 S児</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉症スペクトラム障がい、多動性障がい、言語発達遅滞 ・ルールが複雑なゲームには参加できない。 ・複雑な動きのあるダンスは理解するのが難しい。 ・複雑な作業は、「できない」「難しい」と訴えることがある。 ・一人で蝶々結びをすることができない。 ・一人で靴ひもを結ぶことができない。 ・一人で固結びをすることができない。 	<p>目標 ・ 指導 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○蝶々結びの仕方を覚え、一人で蝶々結びをすることが出来る。 ○靴ひもを自分で結ぶことが出来る。 ・教材を使い、自分の力で蝶々結びができるようにする。 ・自分で靴ひもが結べるようにする。
<p>指導の経過・ 工夫点・子ども の変容</p>	<p>○対象のS児が普段はいている靴は、マジックテープのワンタッチ式である。そのため、蝶々結びの必要性をあまり感じていないが、今後この結び方が生活の場面で起こることが予想される。そこで蝶々結びの仕方をマスターさせていきたいと考えている。</p> <p>①教材の作り方 日常的に繰り返し蝶々結びができるよう、教材を作る。 材料…靴ひも、段ボール、靴の絵をプリントした用紙。 工夫…段ボールの角を丸くする。本物の靴ひもを使用。</p> <p>②教材を活用した指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がS児に蝶々結びの仕方を見せる。 ・教師が手を添えて、一緒に蝶々結び練習する。 ・教師が声をかけながらS児が一人で蝶々結びをやってみる。 <p>※複雑な動きを「わっか→くるりん→とんねる→わっかをぎゅっ」と言語化し、動きをイメージしやすくする。</p> <p>③繰り返しの練習…少しずつ自分一人で蝶々結びができるようになってきている。</p>		
<p>成果と課題・ 今後の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的にいつでもできるようになり、少しずつだが児童自身も上達している。 ・自宅に持って帰ることができ、学校と家庭で同じ練習が可能となった。 ・短い時間で練習が可能となった。 ・紐の色を変えた方がよかった。 ・結ぶ指導だけでなく、ほどく指導も必要であった。 ・紐をだんだん短くしていくことを考えている。 		 